「主の言葉は永遠に変わることがない」　　2026 年 01 月 16 日

また、あなたがたは、人をそれぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、父と呼んでいるのですから、この地上に寄留する間、畏れをもって生活しなさい。知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来の空しい生活から贖われたのは、銀や金のような朽ち果てるものによらず、傷も染みもない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。したがって、あなたがたの信仰と希望とは、神にかかっているのです。あなたがたは、真理に従うことによって、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、 すなわち、神の変わることのない生ける言葉によって新たに生まれたのです。こう言われているからです。「人は皆、草のようで/その栄えはみな草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。」これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです（Ｉペトロ 1：17～25）

著者は、あなたがたは、人の行いに応じて公平に裁かれる神を「父」と呼び、 信じているのだから、地上に寄留する間、この方を畏れて生活すべきであると諭す。「知ってのとおり、あなたがたが先祖伝来の空しい生活から贖われたのは、銀や金のような朽ち果てるものによらず、傷も染みもない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。」先祖から伝わった根拠のない、虚無的な生活から救われたのは、銀や金などのこの世の代価ではなく、傷も染みもない小羊のようなキリストの十字架の尊い血によってであった。「贖う」は「金品を代償として、罪を免れる」という意味で、聖書では、イエス・キリストが十字架で流された血によって、人間の罪が赦されたという福音の核心を指す言葉である。キリストは天地創造の前から存在しておられたが、この終わりの時に、すなわち今、この世に、あなたがたのために現れてくださった。あなたがたは、イエス・キリストを十字架の死の中から復活させて、栄光をお与えになった神を、キリストによって信じている。従って、あなたがたの信仰と希望は神にかかっている。あなたがたは、神がキリストにおいて現わしてくださった真理を受け入れ、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのだから、清い心で深く愛し合いなさい。あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種、即ち、神の変わることのない生ける言葉によって新たに生まれたのである。パウロは、主イエスの十字架に罪を贖う赦しを信じ、復活に神の栄光を見て、これを福音として全力で宣教した。著者は、パウロの信仰に倣う信仰に立ち、十字架と復活に神の言葉の真理があり、この真理によってあなたがたは生まれ変わり、愛に生きるようになったと語る。第二イザヤは、バビロン捕囚からの解放を聞いて、神を賛美し、「草は枯れ、花はしぼむ。主の風がその上に吹いたからだ。まさしくこの民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。しかし、私たちの神の言葉はとこしえに立つ（イザヤ 40:7～8)」と、歴史は栄枯盛衰の理通りを刻むが、私たちを愛してくださる神の言葉はとこしえに変わることはないと歌った。この変わることのない神の言葉こそが、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのである。「神の言葉はとこしえに立つ」という言葉が、Ｉペトロの読者だけでなく、代々、迫害に苦しむ人々の励ましの言葉であった。